

令和3年(2021年)上半期火災・救急・救助の概要について

火災概要

令和3年上半期の火災発生件数は10件で、前年同期と比べ1件の増加となっている。火災種別ごとに前年同期と比較すると、建物火災が5件で2件の増加、林野火災が1件の皆増、車両火災が1件で2件の減少、その他の火災が3件で増減なしとなっている。

火災による焼損棟数は6棟で、前年同期と比べ2棟の増加となっている。焼損程度ごとに前年同期と比較すると、全焼が2棟で1棟の増加、部分焼が1棟の皆増、ぼやが3棟で増減なしとなっており、焼損床面積は42平方メートルで131平方メートルの減少、焼損表面積は1平方メートルの皆増となっている。

火災による人的被害は、負傷者が3人の皆増となっている。

り災世帯及びり災人員はなく、小損が3世帯の皆減、り災人員は8人の皆減となっている。

火災損害額合計は587万円で、前年同期と比べ1,099万8千円の減少となっている。損害種別ごとに前年同期と比較すると、建物損害が498万1千円で1,038万3千円の減少、車両損害が63万3千円で23万8千円の減少、その他の損害が25万6千円で37万7千円の減少となっている。

出火原因の状況については、放火、その他が各2件、次いで電気機器、こんろ、ストーブ、取灰、たき火、不明が各1件となっている。

前年同期と比べ火災件数が増加しており、なかでも、放火が原因の火災が2件と出火原因の中で最も多いため、放火による火災発生防止の徹底を図り、今後も更に防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分		年 別		令和3年 (2021年)	令和2年 (2020年)	前年との 比 較
		計				
出火件数 (件)	計			10	9	1
	建	物火災		5	3	2
	林	野火災		1		1
	車	両火災		1	3	△ 2
	船	舶火災				
	航	空機火災				
	その他の火災			3	3	
焼損棟数 (棟)	計			6	4	2
	全	焼		2	1	1
	半	焼				
	部	分焼		1		1
焼損面積	ぼ			3	3	
	建 物 (㎡)	床 面 積		42	173	△ 131
		表 面 積		1		1
林 野 (a)						
人的被害 (人)	死 者					
	負 傷 者			3		3
り災世帯 (世帯)	全 損					
	半 損					
	小 損				3	△ 3
り 災 人 員 (人)					8	△ 8
損 害 額 (千円)	計			5,870	16,868	△ 10,998
	建	物 損 害		4,981	15,364	△ 10,383
	林	野 損 害				
	車	両 損 害		633	871	△ 238
	船	舶 損 害				
	航	空 機 損 害				
	その他の損害			256	633	△ 377
	爆 発 損 害					
1日平均損害額 (千円)				32	93	△ 61
市民1人あたりの損害額 (円)				79	227	△ 148
火災1件あたりの損害額 (千円)				587	1,874	△ 1,287
建物火災1件あたりの焼損床面積 (㎡)				8	58	△ 50
出 火 率 (件/万人)				1.4	1.2	0.2

△は減少を示す

救急概要

令和3年上半期の救急出動件数は1,597件、搬送人員は1,518人で、前年同期と比べ出動件数は77件の減少、搬送人員は80人の減少で、1日平均8.8件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病1,114件、一般負傷251件、交通事故108件で全体の92.2%を占め、以下、転院63件、労働災害19件、自損行為14件、運動競技及び加害が各7件、火災1件、その他が13件となっている。

事故種別ごとに前年同期と比較すると、転院13件、労働災害9件、運動競技及び加害が各3件、火災及びその他が各1件の増加に対し、急病79件、自損行為11件、一般負傷10件、交通事故が7件の減少となっている。

搬送人員1,518人の傷病程度については、死亡24人、重症95人、中等症593人、軽症806人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の53.1%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故83.0%、一般負傷65.8%、急病50.0%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内48.0%、久御山町内23.8%、宇治市内20.1%、京田辺市内4.9%、京都市内2.4%、その他の京都府内0.5%、他府県0.3%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、普通救命講習I（3時間）を6回35人、その他の講習を7回492人に対して実施している。

救急出動状況は、前年同期と比べ出動件数で4.6%の減少、搬送人員で5.0%の減少となっている。搬送人員における高齢者の割合は70.4%を占め、前年同期と比べると0.1ポイントの減少となっているが、依然として高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和3年(2021年)			令和2年(2020年)			前年との比較			
		出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	出動件数 (件)	うち 管外 (件)	搬送人員 (人)	
事 故 種 別	火 災	1		1			1		1		
	自 然 災 害										
	水 難										
	交 通 事 故	108	1	100	115		109	△ 7	1	△ 9	
	労 働 災 害	19		19	10		10	9		9	
	運 動 競 技	7		7	4		4	3		3	
	一 般 負 傷	251	1	240	261	1	250	△ 10		△ 10	
	加 害	7		5	4		3	3		2	
	自 損 行 為	14		12	25		20	△ 11		△ 8	
	急 病	1,114	3	1,071	1,193	1	1,152	△ 79	2	△ 81	
	そ の 他	転 院	63		63	50		50	13		13
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
そ の 他		13			12			1			
合 計		1,597	5	1,518	1,674	2	1,598	△ 77	3	△ 80	
不 搬 送 件 数 (件)		82			84			△ 2			
出 動 延 べ 員 (人)		5,030			5,199			△ 169			
1 日 平 均 出 動 件 数 (件)		8.8			9.2			△ 0.4			
1 日 平 均 搬 送 人 員 (人)		8.4			8.8			△ 0.4			
1 日 最 多 出 動 件 数 (件)		18			21			△ 3			

△は減少を示す

傷病程度別救急搬送人員状況

事故種別 傷病程度別		急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
死	亡	20		1	3	24	1.6
重	症	66	3	12	14	95	6.3
中	等症	450	14	69	60	593	39.1
軽	症	535	83	158	30	806	53.1
そ	の他						
計		1,071	100	240	107	1,518	100.0
軽症者比率 (%)		50.0	83.0	65.8	28.0	53.1	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

事故種別 収容先別		急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
城	陽市	500	60	142	27	729	48.0
久	御山町	273	18	49	22	362	23.8
宇	治市	221	14	36	34	305	20.1
京	田辺市	50	6	13	5	74	4.9
京	都市	22	1		14	37	2.4
その他の京都府内		3	1		3	7	0.5
他府県		2			2	4	0.3
計		1,071	100	240	107	1,518	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年齢別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他(人)	計(人)	比率(%)
新生児						
乳幼児	33	3	9	1	46	3.0
少年	14	4	6	6	30	2.0
成人	247	50	29	47	373	24.6
高齢者	777	43	196	53	1,069	70.4
計	1,071	100	240	107	1,518	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救助概要

令和3年上半期の救助出動件数は21件、活動件数は14件、救助人員は12人で、前年同期と比べ出動件数は5件の増加、活動件数は増減なし、救助人員は5人の増加となっている。

事故種別ごとの出動及び活動状況では、交通事故の出動件数は5件で活動件数が4件、機械による事故の出動件数は1件で活動件数が1件、建物等による事故の出動件数は3件で活動件数が3件、その他の事故の出動件数は12件で活動件数が6件となっている。

事故種別ごとの救助人員及び傷病程度をみると、交通事故では4人を救助し、中等症、軽症が各2人となっており、機械による事故では1人を救助し、死亡が1人となっており、建物等による事故では2人を救助し、軽症、その他が各1人となっており、その他の事故では5人を救助し、重症、軽症、その他が各1人、中等症が2人となっている。

前年同期と比べ救助出動件数及び救助人員が増加しており、今後も都市構造の変化により複雑多様化する救助事象に対応するため、救助資器材の整備や訓練を重ね、隊員の知識・技術・体力の向上を図り、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事故種別	令和3年 (2021年)			令和2年 (2020年)			前年との比較		
	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)	出動 件数 (件)	活動 件数 (件)	救助 人員 (人)
火 災									
交 通 事 故	5	4	4	3	2	2	2	2	2
水 難 事 故									
風水害等自然災害									
機械による事故	1	1	1	1	1	1			
建物等による事故	3	3	2				3	3	2
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
その他の事故	12	6	5	12	11	4		△ 5	1
合 計	21	14	12	16	14	7	5		5

△は減少を示す

事故別傷病程度状況

傷 病 程 度 事 故 種 別	活 動 件 数 (件)	救 助 人 員 (人)	傷 病 程 度					
			死 亡 (人)	重 症 (人)	中 等 症 (人)	軽 症 (人)	そ の 他 (人)	
火 災								
交 通 事 故	4	4			2	2		
水 難 事 故								
風水害等自然災害								
機械による事故	1	1	1					
建物等による事故	3	2				1	1	
ガス及び酸欠事故								
破 裂 事 故								
その他の事故	6	5		1	2	1	1	
合 計	14	12	1	1	4	4	2	